

奥 中 喜代一（おくなか きよいち）

笹 山 幸 俊

(神戸市助役)

明治24年12月6日（1891年）に大阪府泉北郡西百舌村に生まれ、大正5年帝国大学土木学科を卒業、南満州鉄道勤務の後、大正9年に神戸市に技師として奉職、都市計画部調査課長、工務課長、土木部都市計画課長、山地課長等を歴任され、神戸市理事を最後に昭和18年に退職された。

神戸市に勤務を始めた頃は、大正8年の都市計画法の制定に伴い、大正11年に初めて神戸市の都市計画区域が決定された。またこの頃から都市計画予算が初めて単独で計上され、市の組織として都市計画部が新たに設けられる等神戸市の都市計画の始まりであった。

一方、氏が退職された昭和18年頃は戦時体制への移行が進み、都市計画の基本的な役割を果たす地域制度が停止される等、町づくりを目的とした本来の都市計画は事实上終わった時期であった。

このように氏の神戸市での在職期間は、戦前の神戸市の都市計画の黎明から終焉迄の歴史そのものであった。その間24年に亘って神戸市の都市計画、土木行政に大きな役割を果たされ、現在の神戸の町の骨格形成と都市計画の基礎をつくられた。



また都市計画課長時代の大正12年から一年有余外遊され、諸外国の都市計画に関する資料の収集、知識の吸収に努められ、神戸の都市計画に大きな影響を与えたのである。

戦後の昭和23年から27年神戸工業専門学校（現神戸大学工学部）及び神戸大学工学部の講師として、また昭和38年から昭和44年迄神戸市立工業専門学校の教授として、主として上下水道、都市計画の調査研究を通じて、人材を世に出され、神戸市の都市計画関係職員の中には、氏の教えを受けた者も多い。

また、昭和31年から昭和59年迄神戸市の戦災復興事業の土地区画整理審議会の学識経験委員を務められた。

ご高齢にもかかわらず、体力、気力共にお強く、審議会には欠かさず出席され、その卓越した知識と経験をもって戦後の土地区画整理や再開発等の町づくりに尽力をつくされた。

著書として昭和32年頃から順次「国際港都の生いたち」7巻を発行されており、これには専門の都市計画のみならず神戸の古代からの歴史、文学等にも及んでおり、氏の幅広い研究分野と豊富な知識に敬服すると共に、都市計画における文化財の大切さを教えられた。

このように神戸の町づくりと共に歩まれた氏は、昭和61年4月5日96才の天寿を全うされた。